

地域の読書環境を立場の垣根を越えて考え、支える

～やまなし読書活動促進事業(やま読)の10年～

山梨県立図書館(山梨県甲府市)

URL: <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

やまなし読書活動促進事業(通称やま読)は、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心を高め、読書習慣を確立することにより、読書活動の推進を図ることを目的とした事業。山梨県教育庁生涯学習課が中心となり、地域の書店と図書館が連携して、官民一体で進める取組となっている。

取組詳細

平成24年度に山梨県立図書館が甲府駅北口に移転開館するのにもない館長に就任した作家の阿刀田高氏(現名誉館長)が提唱した「親しい人に本を贈る習慣の定着を」という考えに基づき、平成26年度から実施している。大きな柱として県立図書館、書店、生涯学習課がそれぞれ中心となって取り組む3つの事業がある。

①贈りたい本大賞(県立図書館)

大切な人に贈りたい本について、その推薦文(その本を選んだ理由、贈りたい理由、書名、著者名等、150字以内)を募集し、大賞を決める。

※令和5年度は10回目となり3,875点の応募があった。

②やま読ラリー(県内書店)

「知の回遊」と称し、県内書店と図書館を利用して、スタンプを集めることで地域の伝統工芸品である甲州印伝で制作した「オリジナルしおり」をプレゼント。

③やま読ブックフェア(生涯学習課)

秋の読書週間に合わせて開催。フェア期間中は県内の図書館や書店が統一したテーマで本の魅力を発信する。(令和5年度テーマ「全国に誇るやまなし自慢」)

※その他にも、県立図書館では

- ・県内公共図書館司書が薦める「図書館司書が選ぶこんな時、この一冊。」
- ・館長企画講演会(書店がその場で販売する書籍を用いてサイン会)などを、やま読事業として位置づけて一体的に周知することで、県民の事業に対する理解促進に努めている。

■実行委員会

事業と合わせて、特徴として挙げたいのが「実行委員会」の存在である。社会教育課(現在の生涯学習課)、県立図書館、書店で構成する実行委員会を立ち上げ、その後も出版社や出版取次、県内市町村の図書館関係者や大学関係者など、多様なメンバーが参画し、事業の方向性などについて協議・検討を進めている。事業の改善を図るとともに、図書館と書店が相互理解を深めるなど、委員会が県内読書活動促進のための原動力となっている。令和4年度には県内の大学図書館サークルがやま読サポーターとなり活動に参加するなど、新たな連携の形も生まれている。



贈りたい本大賞表彰式



やま読実行委員会の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 山梨県甲府市北口
2-8-1

人口
(図書館が所在する市町村)
18.5万人

職員数(うち有資格者数)
47人(32人)

蔵書数
約71.1万冊

取組の成果と今後

○平成26年度の事業開始から今年度で10年目を迎える。継続した取り組みにより、全国図書館大会での2度の事例発表(平成30年度、令和3年度)や令和元年度に第13回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞するなど、一定の評価を得ている。

○一方で県内では書店の閉店や図書館の閉館もあり、図書館も書店も存在しない自治体は今後益々増えていくことが予想される。事業に県民全体を巻き込んでいくため、読書・本に関わるあらゆるステークホルダーがやま読に参加できるよう取り組みを広げる必要がある。

○活動が広まることで、本のある場所や、本に触れる機会を増やし、本を贈り合うという習慣の定着につなげていきたい。